

令和5年度(2023年度)教育委員会主要事業点検・評価表

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる

単位施策 10-1 個性と能力が伸びる授業をつくる

【学校教育課】

番号	1	事業名	授業力向上事業	事業費	2,402 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	子どもたちの学力向上には、教員の資質向上が不可欠である。各学校の実態に即した研修と研究を行うことにより、教員の授業力向上を図る。とりわけ、特別支援教育に関しては、近年の急激な特別支援学級、中でも広汎性発達障害等の子どもたちが在籍する自閉症・情緒障害学級の増加だけでなく、通常の学級にもASDやLD, ADHDといった特別な支援を要する児童生徒が一定数在籍するといわれるなど、自閉症・情緒障害及び発達障害の理解に関するニーズが高い。資格をもつ講師による「生きる力と心を育むプログラム『セカンドステップ』」を自閉症・情緒障害学級を主とした特別支援学級で実施することにより、発達障害等の子どもたちの理解と支援について教員が学び、学校生活での指導につなげていく。				
実施内容	教員の授業力向上を図るため、各校において研修・研究を実施し、特別支援教育等の充実のためのモデル校を中心とした授業研究を行った。				
目標に対する 評価	実践的・体験的な研修や授業の参観により、日頃の教育活動の課題解決につながった。また、教員が学んだことを生かして授業改善に取り組んだことで、児童生徒が意欲的に学び、主体的に考えようとする意識が高まった。				
課題・改善点	教育活動に関する先進的な取組を行う講師や、教育現場の今日的課題に指導・助言をもらえる講師を招き、モデル校を指定して研修を行うなど、先を見据えた研修を実施していく。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	英語が話せる子ども育成事業	事業費	49,896 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	学校生活において、英語を使うことを楽しみ、積極的に英語でコミュニケーションをしようとしたり、異文化を理解し日本文化を尊重しようとしたりする児童生徒の育成を図るため、引き続き、英語指導支援員（ALT）を全校に配置し、小中学校が連携する英語・外国語活動の充実を図る。				
実施内容	ALT12人を小中学校に配置し、「英語のあいさつ」「ゲーム」「英語の歌」など音声中心の活動で、主に英語の音やリズムに慣れ親しむ活動や、コミュニケーションを楽しむ授業を行った。また、日本とは				

番号	2	事業名	英語が話せる子ども育成事業	事業費	49,896 千円
		異なる外国の文化等を紹介することで、子どもたちに興味をもたせることができた。授業の他、学校行事等でも子どもたちと過ごすことにより、自然に英語でコミュニケーションをとることができた。			
目標に対する評価		令和5年(2023年)12月に、小学5・6年生と中学1・2年生を対象に「ALTとの授業についてのアンケート」を実施し、小学5年生は85%、小学6年生は85%、中学1年生は94%、中学2年生は89%がALTとの授業が好きであると答えている。また、英語が使えるようになりたいと考えている児童生徒は、小学5年生は78%、小学6年生は77%、中学1年生は84%、中学2年生は78%であった。この結果から、小学校及び中学校の英語科における接続はおおむね良好といえる。ALTが歌やゲーム等、児童生徒にとって親しみやすい活動を取り入れたり、ALTが話す母国語レベルの英語に触れたりすることによる効果が大きい。また、英語への関心意欲を持続させることもできている。			
課題・改善点		ALTとの授業が好きではないと回答する子の理由に、小中学校共通して「ALTが何を言っているのかわからない」「外国の人だと思って緊張する」という意見がある。今後も、歌やゲームを取り入れながら楽しい雰囲気の中で英語に親しめるようにするとともに、授業の中で児童生徒が身近な生活場面を想定しながら日本語を使わないで英語でコミュニケーションできる場面を設定することで、英語に興味を持ち慣れさせる授業を工夫する必要がある。			

【学校教育課】

番号	3	事業名	小学校水泳授業民間施設活用事業	事業費	35,358 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標		民間施設を活用して水泳授業を行うことで、教員のプールの維持管理の負担軽減を図るとともに、施設の維持管理コストの減少を図る。さらに、専門のインストラクターの指導補助により、児童のレベルに合わせた質の高い授業を行う。また、水泳授業の質の向上・平等性の確保のため、民間施設を活用しない小学校にインストラクターを派遣する。			
実施内容		名和小、渡内小、平洲小、明倫小、富木島小、船島小、大田小、加木屋南小において民間施設等のプールを使用するとともに、全小学校でインストラクターの指導補助による水泳授業を実施した。			
目標に対する評価		民間施設を活用することで維持管理の負担軽減が図られ、また、天候に左右されず円滑に授業を行うことができた。 また、水泳授業の指導補助にインストラクターを配置することで児童に合わせた授業を行うことができた。			

番号	3	事業名	小学校水泳授業民間施設活用事業	事業費	35,358 千円
課題・改善点	学校プールの老朽化により民間施設を活用する学校が増えた際に、市内の民間施設のみで秋季までに授業を実施することが難しくなるため、西知多医療厚生組合の健康増進施設の活用も含め調整する必要がある。				

単位施策 10-2 いじめ・不登校対策を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	不登校対策事業
		事業費	15,906 千円（SSW人件費は職員課予算）
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	不登校傾向等の問題を抱える子どもたちに対して、豊かな人間関係や社会性の育成など、自立への基盤づくりを支援するため、適応指導教室「ほっと東海」の運営や、宿泊体験活動「青空教室」を実施するとともに、スクールカウンセラー並びにスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもたちの早期の学校復帰などを支援する。		
実施内容	適応指導教室「ほっと東海」では、教育相談員と教科指導員、サポーターを上野公民館教室及び横須賀教室に各1名ずつ配置し、不登校の要因、不登校による学習の遅れ等をきめ細かく指導している。9月16日から3日間、国立若狭湾青少年自然の家で青空教室を実施した。 また、スクールカウンセラーについては、県からの派遣が充分でない小学校へ4人派遣し、不登校傾向の児童への支援を行い、スクールソーシャルワーカーは、拠点校を中心に各機関と連携しながら家庭的背景を要因とする不登校傾向の児童生徒に対し、福祉等の観点から効果的な働きかけを行った。		
目標に対する 評価	不登校傾向にある児童生徒に対して居場所や学ぶ場の提供、自立のための援助をすることができた。		
課題・改善点	生活リズムの乱れ等を要因とする登校渋りや、中1ギャップなど複合的な要因により不登校傾向の児童生徒の増加が見受けられることから、教員やほっと東海、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによるグループ支援を強化し、必要に応じて関係機関との連携を深め、不登校の未然防止や解消に繋げていく必要がある。		

【学校教育課】

番号	2	事業名	学校の居場所づくり事業	事業費	18,575 千円
令和 5 年度 (2023 年度) の 計画・目標	不登校やいじめの原因解消と、子どもたちが抱える問題の早期発見につなげるため、心の不安や体調不良を訴え、保健室などに居場所を求める子どもたちに対し、その相談相手となる養護教諭と連携して対応する「心の相談員」を配置する。				
実施内容	令和 5 年度(2023 年度)は、小学校 6 校、中学校 6 校に心の相談員を配置し、複数の目で見守ることにより、相談しやすい環境を整えた。				
目標に対する 評価	保健室に養護教諭もしくは心の相談員のどちらかがいることで、来室した児童生徒と話をすることができ、子どもたちに安心感をもたらすことができた。また、気になる子どもの情報共有を行うことで、不登校傾向の子どもの早期発見にもつながり、不安解消への一助となっている。				
課題・改善点	県の養護教諭に欠員が出た際、養護教諭の資格をもつ本市の心の相談員が県採用の養護教諭となることにより心の相談員が欠員となるケースが度々ある。子どもたちが安心して来室できるよう、安定した配置を図る必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	いじめ防止等対策事業	事業費	795 千円
令和 4 年度 (2022 年度) の 計画・目標	東海市子どものいじめ防止条例の制定を受け、子どものいじめ防止等対策委員会を設置し、いじめの全市的な傾向や実態を把握・分析し、いじめ対策を推進する。 また、子どもたち自身がいじめを防ぐために何ができるかを考える機会とするため、「東海市子どものいじめ防止サミット」を開催する。				
実施内容	平成 28 年(2016 年)4 月に東海市子どものいじめ防止条例が施行されたことに伴い、年 2 回東海市子どものいじめ防止等対策委員会を開催し、本市のいじめの状況や学校での取組み、今後の課題等について協議した。また、いじめ事案における調査等の対応に当たり、対策委員会から選任した委員などを部会員として専門部会を設置し、調査を行っている。 また、平成 28 年度(2016 年度)より、「東海市子どものいじめ防止サミット」を立ち上げ、市内 18 小中学校から選出された代表児童生徒がいじめに対する意見交換を行っており、令和 5 年度(2023 年度)は、対面形式とオンライン形式で各 1 回、合計 2 回サミットを実施した。各校の代表が、自校の取組状況の報告をしたり、他校の取組に対する質問をしたり、東海市全体として取り組みたいことについて意見を交換した。また、サミットの提言を受け、生徒指導研究部会では、いじめ防止の力を育むための「いじめ未然防止プログラム」の検証授業を行				

番号	3	事業名	いじめ防止等対策事業	事業費	795 千円
	った。				
目標に対する評価	「いじめ防止サミット」の活動として、各校の児童会・生徒会が中心となっていじめ防止のために何ができるのかを考え、子どもたちが主体的に活動をすることができ、「いじめをしない・させない・見逃さない」の意識が高まっている。 また、「いじめ未然防止プログラム」が各校で行われ、子どものいじめ防止に向けた取組みが計画的に実施された。				
課題・改善点	いじめの中には、インターネットやSNSによるトラブル、コミュニケーション不足から始まるものもあるため、情報モラル教育の推進や教員の資質向上に取り組むとともに、子どもの自己肯定感を高め、学校に居場所があることを感じられるような魅力的な学校づくりなど、未然防止に力を入れる必要がある。 また、いじめ防止サミットで各学校がいじめ防止に向け取組んだ内容を拡散し、継続していじめのない学校づくりに取り組んでいく。				

単位施策 10-3 快適で安全な学校生活を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	小中学校等改修事業	事業費	493,684 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	東海市学校施設長寿命化計画に基づく学校施設の老朽化対策としての予防保全と教育環境の質的な向上を併せて実施する長寿命化により、校舎等の改修や設備の取替を計画的に行う。				
実施内容	外壁改修（富木島小、三ツ池小、名和中、加木屋中）、防水改修（大田小、名和中、加木屋中）、下水道切替（名和中）、屋内運動場空調機設置（富木島中、加木屋中）、非構造部材改修（富木島中、横須賀中）、避難器具取替（名和中、上野中）を行った。				
目標に対する評価	令和5年度(2023年度)に実施する施設整備は年度内に完了し、児童生徒が快適に学校生活を送ることができる環境を確保することができた。				
課題・改善点	児童生徒が快適で安全・安心な学校生活が送れるよう学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な更新や改修を実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	小学校トイレ洋式化整備事業	事業費	94,359 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	学習環境及び学校での生活環境を充実させるため、トイレの洋式化によりトイレの環境改善を図る。				
実施内容	小学校 18 校の低学年及び特別支援学級の児童が利用する普通教室に面したトイレ 161 カ所の洋式化及び小便器自動洗浄器設置を行っ				

番号	2	事業名	小学校トイレ洋式化整備事業	事業費	94,359 千円
目標に対する評価	洋式化及び小便器自動洗浄器設置により、児童がトイレを利用しやすくなり、児童生徒の学習環境及び学校での生活環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	洋式化など小中学校トイレの環境改善に寄与する事業を今後も計画的に実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	平洲小学校施設整備基本計画策定事業	事業費	5,900 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	平洲小学校の建替えに向け、現状と課題、備えるべき機能等、設計の前提となる整備方針等を整理し、基本計画を策定する。				
実施内容	学校の現状や課題の整理、備えるべき機能等を教職員、児童（5、6年生）及び保護者へのアンケート調査等により整理した。				
目標に対する評価	教職員によるワークショップやアンケート調査により、今後備えるべき機能等を把握することができた。				
課題・改善点	把握した課題等を整理し、校舎の配置や規模を引き続き検討し、新しい時代に求められる学習環境の整備を進めていく必要がある。				

【学校教育課】

番号	4	事業名	中学校特別教室空調機設置事業	事業費	135,465 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	学習環境及び学校での生活環境を充実させるため、中学校の音楽室、理科室、美術室に空調機を設置する。				
実施内容	中学校の特別教室（音楽室1教室、美術室1教室及び理科室2教室）へ空調機設置を行った。				
目標に対する評価	空調機設置により、児童生徒の学習環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	小学校の特別教室についても環境改善に寄与する事業を今後も計画的に実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	5	事業名	各種サポート事業	事業費	108,077 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	児童生徒に対し必要な支援ができるようにするため、目的に応じて特別支援教育支援員及び障害児サポーター、読書活動サポーターを配置し、学校生活の支援の充実を図る。				

実施内容	特別支援教育支援員を各小学校に1～3人(計20人)配置し、発達障害の傾向がある児童に対して必要な支援を行った。また、身体障害があるなど、校内生活における安全管理が必要な児童生徒に対し、障害児サポーターを15小中学校に1～4人(計33人)配置し、対象児童生徒の補助等を行った。 また、各小学校に読書活動サポーター1人(計12人)を配置し、図書館整備や図書委員会の補助、本の読み聞かせ等を行った。
目標に対する評価	特別支援教育支援員の配置により、通常の学級に在籍する発達障害の傾向にある児童生徒が学校生活を送る上で必要な支援を行うことができ、在籍する学級運営に有効であった。さらに、障害児サポーターの配置は障害により校内での安全管理が必要な児童生徒への合理的配慮の提供となり、それぞれの児童生徒が安心して通学し、学校生活を送ることができるようになった。
課題・改善点	特別な配慮を要する児童生徒が増加傾向にある中で、障害児サポーターや特別支援教育支援員の配置等について十分な検討が必要である。

単位施策 10-4 出会いと体験の場を提供する

【学校教育課】

番号	1	事業名	林間学習事業	事業費	7,471 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	自然環境に恵まれた愛知県野外教育センターでの集団宿泊生活や自然体験活動を通して、自己の可能性の発見、他者への思いやりと協調性など、人として持つべき社会性を育むことを目的とする。				
実施内容	小学校5年生全員を対象に、岡崎市の愛知県野外教育センターにおいて、1泊2日で自然観察会、ハイキング、クラフトづくり、沢遊び等のレクリエーション活動を実施した。				
目標に対する評価	1泊2日で実施し、子どもたちが自然豊かな環境での集団生活を通して、よりよい人間関係を築くとともに、通常の学校生活とは異なる体験をすることで心身ともに調和のとれた健全な育成を図ることができた。				
課題・改善点	現地周辺に医療機関が少ないことを想定した対策を検討していく必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	沖縄体験学習事業	事業費	100,060 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	沖縄の持つ豊かな自然や文化・歴史・風土に触れることにより視野を広げるとともに、ふるさと東海市を客観的に見つめ、平和を愛し、命の大切さを学ぶことを目的とする。				
実施内容	中学校2年生全員を対象に、沖縄市及び渡嘉敷島などにおいて3泊4日の体験学習を実施し、海洋研修による自然体験、平和学習及び沖縄市立中学校での学校間交流などの活動を行った。				
目標に対する 評価	事業実施後のアンケートでは、「語り部の方からの話を聞き、子どもが当たり前のように死んでいく戦争の恐ろしさを感じた。」「姉妹都市である沖縄市の中学校と交流をした際、短い時間であったが話せたのがとても嬉しかった」などの感想があり、96.7%の生徒が「とてもよかった」、「よかった」と回答している。また、生徒が平和等について考える貴重な経験となり、生徒の心に残る体験学習となった。				
課題・改善点	台風など、天候の影響により、急な行程変更が発生することが想定されるため、生徒が安全安心に活動ができ、また、事前学習の成果が達成できるような方策を検討していく必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	①小学生親善交流事業 ②中学校親善交流事業
		事業費	①5,024 千円（米沢市 2,169 千円、釜石市 2,855 千円） ②1,410 千円（米沢市 381 千円、沖縄市 1,029 千円）
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	姉妹都市である米沢市や釜石市、沖縄市との交流を通して、相互の歴史や文化の理解を深めるとともに、団員相互の連帯と協調を図ることを目標とする。		
実施内容	① 小学生親善交流事業 【米沢市】 市内小学校5年生の代表24名で構成する親善訪問団を2月10日から3日間米沢市へ派遣し、雪灯籠・雪ぼんぼりの制作、上杉雪灯籠まつり・上杉博物館等の見学、雪ん子少年団との交流を実施した。 【釜石市】 市内小学校6年生の代表24名で構成する親善訪問団を8月23日から3日間釜石市へ派遣し、釜石市小学生との交流活動、いのちをつなぐ未来館・鶴住居復興スタジアムの見学、被災者の方の講話等を実施した。 ② 中学校親善交流事業 【米沢市】 米沢市の中学生14人を7月26日から3日間受け入れ、平洲記念		

番号	3	事業名	①小学生親善交流事業 ②中学校親善交流事業
		事業費	①5,024 千円（米沢市 2,169 千円、釜石市 2,855 千円） ②1,410 千円（米沢市 381 千円、沖縄市 1,029 千円）
		館、芸術劇場（嚶鳴広場・対面の像）の見学、中部国際空港（セントレア）見学、陶芸体験及び日本製鉄株式会社名古屋製鉄所の工場見学等を行い、4 年ぶりに対面による親善交流を実施した。 【沖縄市】 沖縄市の中学生 16 人を 12 月 1 日から 4 日間受け入れ、平洲記念館、日本製鉄名古屋製鉄所の工場見学、大田まつりの山車蔵等の社会見学や交流会等を行い、東海市の魅力を十分に伝えることができた。	
目標に対する評価		① 小学生親善交流事業 【米沢市】 子どもたちが、平洲先生と鷹山公との絆が現代に引き継がれていることを自分たちの体験を通し、知ることができた。また、団員たちとの共同作業や体験活動を通して、協調性や相互扶助の精神を身につけることができ、今後の生活に生かそうとする姿勢が見られた。 【釜石市】 釜石市に訪れることで震災の悲惨さや防災教育の大切さを身に染みて学ぶことができた。また、姉妹都市である両市の関わりや互いの文化や歴史について理解を深めることができた。 ② 中学校親善交流事業 【米沢市】 4 年ぶりに対面による交流を行うことができ、両市の郷土の違いを知り、東海市の良さに改めて気づくきっかけとなった。また、先施の心をもって米沢市訪問団をもてなすことができ、細井平洲先生と上杉鷹山公のように、両市の訪問団員の絆も深まった。 【沖縄市】 中学 2 年生で訪れる沖縄市をより深く感じ取ることができた。互いの郷土の違いを知るとともに、東海市の良さを再発見するきっかけとなった。また、おもてなしをする立場として、相手に対する気遣いや、積極性を学ぶことができた。	
課題・改善点		団員たちが本事業を通して学んだことを他の児童生徒にも伝え、市全体で姉妹都市の文化や歴史等について理解を深めていく必要がある。	

単位施策 10-5 食の大切さと楽しさを理解させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	食育推進事業	事業費	848,655 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	老朽化した施設の修繕及び厨房備品を更新し、安全な学校給食を提供する。また、地場産物の利用拡大、地元企業との連携、献立の工夫等により楽しい学校給食を提供する。 栄養バランスにすぐれ、子どもたちの成長に必要な摂取カロリーを満たすことができる適切な学校給食を提供する。				
実施内容	施設面では、明倫調理場・加木屋調理場の廃水処理施設整備工事を行った。厨房備品については、明倫調理場の食器消毒保管機 1 台、加木屋調理場のスチームコンベクションオーブン 1 台、フードスライサー 1 台を更新した。 献立については、毎月 10 日には「トマトの日」、19 日には「東海市もぐもぐ食育デー」として、地元企業と連携したトマト給食や、地場産物を多く利用した特別献立、また、「姉妹都市の郷土料理を味わう日」として、姉妹都市の郷土料理を取り入れた学校給食の提供を行った。 残菜量については、毎月 19 日には「残さず食べよう平洲くんポスター」を各クラスに掲示し、学校と栄養教諭が連携して食育指導の中で啓発を行ったり、食べ残しの多い献立については、栄養バランスを考えながら味の工夫を行ったりした。				
目標に対する 評価	調理業務環境を整えることにより、安全な給食の提供を行うことができた。 また、地元企業との連携、地場産物や郷土料理を取り入れたことにより、地域の食文化や食に関する産業の理解を深めることができた。 残菜量については、令和 4 年度(2022 年度)が 22,305 kg、令和 5 年度(2023 年度)が 23,172 kg で、令和 4 年度(2022 年度)に比べて 867 kg 増加となった。理由としては、インフルエンザ等の感染症等により当日の欠食者が増えたことや食べ残しの指導の変化も影響していると考えられる。 残菜量の削減を図るため、健康な体をつくるためには必要な量であることを伝え、栄養教諭と協力しながら、給食への興味、食の大切さや食べる意欲を高める食育指導を継続して行っていく必要があると考えている。				
課題・改善点	老朽化した施設・設備の計画的な更新や修繕を行い、引き続き安心安全な給食を提供する必要がある。				

施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える

単位施策 11-1 地域に開かれた学校をつくる

【学校教育課】

番号	1	事業名	学校支援協議会設置事業	事業費	3,882 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	保護者や地域住民に学校の運営、支援、評価に対する理解と協力を得つつ、地域のボランティアに支えてもらう開かれた学校づくりを進めるため、小学校で学校支援協議会を運営する。				
実施内容	平成 24 年度(2012 年度)より配置したボランティアコーディネーターを活用して、学校のニーズに基づいて、地域住民が学校運営に参画した。				
目標に対する 評価	令和 5 年度(2023 年度)は 7,866 人が学校支援ボランティアとして活動しており、前年度に引き続き、令和元年度(2019 年度)以前と比較して減少しているが、これは新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動を中止していた時期があったことなどによるものだが、順調に回復している。学校評価アンケートでは、約 7 割の地域住民が「学校からの協力依頼があれば、できるだけ協力したい」と回答しており、今後の事業への活かし方を検討していく。				
課題・改善点	ボランティアコーディネーターを活用して、学校のニーズと地域住民のボランティアへの意欲とのマッチングをする必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	学校評価事業	事業費	1,067 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	学校運営の改善を図り、開かれた学校、地域に信頼される学校づくりを進めるため、各小中学校で学校評価を実施する。				
実施内容	児童生徒、保護者、教員及び地域に対し、それぞれの学校の方針や学校運営の方向性等についてのアンケートを実施した。また、教育活動、学校運営の自己評価も行い、アンケート結果とともに公開した。経年変化を見ていく項目と重点に絞る項目と区別をしっかりとアンケート項目を精選した。				
目標に対する 評価	学校の重点目標を明確にしたアンケートを実施することにより、今年度取り組んできた教育活動を客観的に振り返ることができた。また、その結果を基に、来年度の教育方針を立てる一助となった。さらに、アンケート項目を精選したことにより、成果と課題が明確になった。				
課題・改善点	より評価しやすいアンケート項目の検討を行うとともに、学校評価アンケート以外での評価指標の検討を行っていく必要がある。				

単位施策 11-2 笑顔と愛にあふれる子どもを地域の連携で育てる

【社会教育課】

番号	1	事業名	放課後子ども総合プラン推進事業	事業費	174,731 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	子どもたちの安全で安心な居場所の提供と、多様な体験活動を推進すると共に、地域全体で子どもの健全育成を図るため、子ども教室と放課後児童クラブを連携して実施する。				
実施内容	子ども教室では、小学校の特別教室等の施設を活用し、地域住民等の協力を得て、文化活動やスポーツ、学習活動等を実施した。ものづくり特別教室（ものづくり道場）については、コロナ禍前の規模に戻して実施した。 放課後児童健全育成事業では、児童の入退室管理システムの導入、利用料等のキャッシュレス決済導入等のICT化を実施した。 放課後子ども総合プラン運営委員会を9月と3月に開催した。				
目標に対する 評価	子ども教室と放課後児童健全育成事業を連携して実施し、子どもたちにとって安全・安心な居場所を確保することができた。 子ども教室については、令和4年度（2022年度）より引き続き拡充して実施しているスポーツ等体験機会の中でも、サッカー教室を初めて校庭で実施した。また、感染対策として行っていた、児童の人数制限を解除し、講師が定める定員に戻して実施したため、多くの児童が参加し、様々な体験機会を提供できた。 放課後児童健全育成事業については、児童の入退室管理システムの導入、利用料等のキャッシュレス決済導入等のICT化により児童の安全性及び保護者の利便性を向上することで、就労する保護者の支援ができた。 放課後子ども総合プラン運営委員会を9月と3月に開催し、明倫小学校の子ども教室と放課後児童クラブの一体型運営の視察を行い、学校教育課、女性・子ども課と連携して総合的に協議することができた。 【子ども教室】 12 小学校 ・延べ参加者数(体験教室) 10,238 人(前年度比較 1,230 人増) 1 回当たり 11.8 人 ・教室開催回数 866 回(前年度比較 56 回増) ・延べボランティア講師数 1,473 人(前年度比較 199 人増) 【ものづくり特別教室（ものづくり道場）】 ・実施ブース数 25 ブース(事前予約 10 ブース、当日参加 15 ブース) ・来場者数 1,400 人 【放課後児童健全育成事業】 12 小学校 平日 1 日当たり平均利用人数 818 人(前年度比較 51 人増)				

番号	1	事業名	放課後子ども総合プラン推進事業	事業費	174,731 千円
課題・改善点	子ども教室は、人気教室にとられることなく、様々な内容の教室に取り組み、豊かな体験活動の場を提供していく。近年、各地で夏季の猛暑による児童生徒の熱中症事故が増加しており、夏季の体験教室については、熱中症対策の観点からも安全管理に努める必要がある。夏季（5月～9月）における体育館及び校庭での体験教室については、暑さ指数（WBGT）を考慮した運営方法で実施していく。 放課後児童健全育成事業は、児童を安全・安心に預かることができるよう、適切なクラブ室や指導員の確保が肝要であるが、利用者数が増加しているクラブがあるため、利用者の増加状況に応じて、クラブ数や実施場所の拡大、指導員の確保に努める必要がある。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	学習支援教室開催事業	事業費	2,390 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	家庭学習が十分でなく、学習習慣が身につけていない中学生を対象に、学習する場を提供して生徒の居場所をつくとともに、学習習慣を身につけることで基礎学力の向上を支援する。また、市内在住の生徒を広く受け入れるため、開催場所を市内南北2か所に設定して実施する。				
実施内容	市内の6中学校の全学年生徒を対象に、毎週土曜日及び日曜日に市内南北2か所で実施し、学習支援員等による学習の支援を行った。 実施回数 北地区（日曜日） 42回 南地区（土曜日） 43回 延べ参加者数 北地区（日曜日）410人 南地区（土曜日）1,094人				
目標に対する 評価	北地区、南地区ともに出席率は良好であり、生徒の居場所づくり及び基礎学力の向上につながったと考える。また、中学3年生の参加者について、全員進学することが決定した。生徒からは「学校とは違い、緩い感じの学び舎で安心できる」等の感想もあり、不登校や発達障害の状況にある生徒も参加できていることから、気軽に参加できる雰囲気をつくることができていると考える。				
課題・改善点	生徒の学習方法もタブレットを活用したものにシフトしてきていることから、必要な環境整備を検討していく必要がある。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	ふれあい交流推進事業	事業費	300 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	子どもの社会性をはぐくみながら地域との交流を図る場を提供するため、幼児、小学生、中学生等の異年齢の交流や地域を始めとした大人との交流を創出する「ふれあい交流推進事業」を実施する。				
実施内容	大人と子どものふれあい活動が活発な上野中学校区、平洲中学校区、横須賀中学校区のふれあい交流事業実行委員会に委託し、異年齢の子ども同士の交流や地域住民と子どもとの交流の場を提供の計画をした。 上野中学校区では、あいさつの大切さや意義を学ぶため、中学生が中心となり、登校している児童や地域の方とあいさつを交わす「上中校区あいさつ運動」等を実施した。また、保育園と小学校の交流として、小学生が新入生を温かく迎え入れるよう手紙等を作成した。 平洲中学校区では、小学生、中学生、保護者、地域住民が協働して、校舎内外の整備及び清掃活動を行う「環境整備活動」等を実施した。 横須賀中学校区では、4 月から横須賀中学校に入学する小学 6 年生を対象として、ミニレク体験などをとおして、入学への期待を高め、中学校生活への不安等の軽減を図るため「横中レクリエーション」を実施した。 上野中学校区延べ参加人数 1,666 人 平洲中学校区延べ参加人数 430 人 横須賀中学校区延べ参加人数 390 人				
目標に対する 評価	異なる年代の子どもや大人に様々な活動を通して、貴重なふれあいの場を提供することができた。 上野中学校区では、異年齢の子どもを思いやり、温かく迎え入れるための社会性、協調性を高めることができた。 平洲中学校区では、勤労の精神を養い、地域への愛着の気持ちを高めることができた。 横須賀中学校区では、小学 6 年生が入学前に中学生等とふれあうことで、中学校生活への不安軽減や、入学への期待を高めることができた。				
課題・改善点	子どもが社会性を身につけるために、異なる年代の子どもや大人がふれあう機会は有効であるため、継続して実施していく必要がある。				

施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる

単位施策 12-1 青少年が活躍する場をつくる

【社会教育課】

番号	1	事業名	20歳の集い開催事業	事業費	3,638 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	20歳の集いを開催することにより、ふるさと東海市を意識する機会、また将来を担って活躍することを励ます場として「東海市20歳の集い」を開催する。				
実施内容	20歳となる参加者が将来の担い手としての自覚を持ち、社会人として責任ある行動ができるよう祝い励ます20歳の集いを実施し、1,033人が参加した。 また、20歳の集い実行委員会を組織し、20歳となる参加者目線でのアイデアを盛り込んだ企画・運営を実施した。				
目標に対する 評価	実行委員が団結し、参加者目線で企画・運営を実施したことで、多くの参加者に20歳としての自覚を促す機会を提供することができた。				
課題・改善点	令和4年度（2022年度）から民法の改正により成年年齢が18歳となったが、18歳は進学や就職を控える多忙な時期であるため、ふるさと東海市を意識する機会として、また、将来を担って活躍することを励ます場として、引き続き20歳を対象とした「20歳の集い」として継続して実施していく必要がある。また、20歳を迎える市民等により実行委員会を組織し、引き続き柔軟な発想力を生かした企画運営を推進する必要がある。				

単位施策 12-2 青少年の非行を防止する

【社会教育課】

番号	1	事業名	青少年育成センター設置事業	事業費	5,122 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	青少年が心身ともに成長できるように学校、警察、家庭、地域や関係機関と連携を図りながら、街頭パトロールや非行防止キャンペーンなど、青少年の非行防止及び健全育成を図るための活動を行う。				
実施内容	青少年育成員による街頭パトロールや、少年指導員による青色防犯パトロール、情報モラル教室、非行防止教室など青少年を有害な環境から守るための活動を行った。また、小中学生、保護者に非行防止啓発チラシを配布した。				
目標に対する 評価	地域・学校等各種関係団体及び機関が連携を図り、積極的に啓発活動を行うことで、青少年の非行防止及び健全育成に一定の成果を挙げている。				
課題・改善点	青少年を取り巻く社会環境の変化を常に察知するとともに、地域の実情に合った活動スタイルを構築し、効果的に青少年の非行防止及び健全育成の啓発を行っていく必要がある。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	青少年居場所づくり推進事業	事業費	475 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	良好な対人関係づくりをめざす青少年の人間形成を支援し、青少年と大人の絆づくりを目的としたスポーツ大会を通して、自分自身を鍛え、人間関係を築き上げる契機とする。				
実施内容	ふれあい活動として、小中学生対象のボルダリング大会及び中学生を対象としたカートレースを実施した。				
目標に対する 評価	ふれあい活動を通して、青少年と大人との良好な関係づくりが図られ、青少年の健全育成において、成果があったものと考えている。				
課題・改善点	地域、学校、警察、各種団体等多様な関係機関との連携を一層深め、青少年が良好な人間関係を育み地域で健全に成長するために、より効果的な事業を企画・実施し、ふれあい活動を充実させていく必要がある。				

施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる

単位施策 13-1 子どもが社会性を身につけ思いやる心を育てる

【社会教育課】

番号	1	事業名	社会性を身につける事業	事業費	0 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	該当事業なし				
実施内容	_____				
目標に対する 評価	_____				
課題・改善点	_____				

単位施策 13-2 思いやり感謝し親切にできる地域をつくる

【社会教育課】

番号	1	事業名	家庭教育推進事業	事業費	805 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	子育て中の保護者の悩みを軽減し、家庭教育力を向上させるため、未就学期から思春期までの様々な世代に合わせた講座・シンポジウムを開催する。				
実施内容	【家庭教育支援事業】 未就学児をもつ保護者同士がつながりをもち、地域の家庭教育力の向上を図ることを目的に4回講座を実施した。 延べ参加者数 79 人				

番号	1	事業名	家庭教育推進事業	事業費	805 千円
	【家庭教育シンポジウム開催事業】 現代の子どもを取り巻く複雑な環境を家庭教育の観点から分かりやすく課題整理し、保護者の悩み解決の一助とするとともに、地域とのつながりを踏まえた家庭教育力の向上を図るため、家庭教育に関するシンポジウムを1回開催した。 参加者数 132 人				
目標に対する評価	講座等に参加することにより、保護者同士の交流が持てたり、子どものしつけやコミュニケーションの取り方等について理解を深めたり、また、子どもの言動等を理解し、親子間でのわだかまりを解消する等、家庭教育への意識を高めることができた。				
課題・改善点	家庭内等で保護者と子どもの会話やふれあいが増進する方法を伝え、保護者と子どもの良好な関係を築いた上で、正しいマナー等を教え、保護者自身も再確認することができる機会を提供していく。				

施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる

単位施策 14-1 学び教え合う学習活動を充実させる

【社会教育課】

番号	1	事業名	地区公民館等活動推進事業	事業費	4,886 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	地区公民館等は、地域の学びの場、地域づくりを推進するため、高齢者世代、子育て世代などを対象とする魅力的な講座等を引き続き実施する。				
実施内容	地域における生涯学習の場として、その地域の特性に合った講座等を住民に提供した。 開催講座数 219 講座(前年度比較 1 講座増) 延べ開催数 1,102 回(前年度比較 40 回減) 延べ参加者数 15,958 人(前年度比較 1,095 人増)				
目標に対する評価	緑陽市民館がコミュニティセンターへ移行したものの、各館にて活発に事業を実施し、開催講座数、延べ参加者数は増加傾向となっている。その中でも従来の高齢者世代、子育て世代に対する講座に加え、日常生活に必要なものを作る手芸講座を開催したことで、幅広い世代を対象とした、地域住民の生涯学習の場を提供することができた。 また、一部の地区公民館では、星城大学の学生に講座を企画・運営してもらい、地域との交流を図ることができた。				
課題・改善点	引き続き、地域ニーズに対応した講座を実施する。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	地域サロンカフェ推進事業	事業費	398 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	新しい利用者や利用者同士の交流が促進されるように、住民が気軽に集い交流できる地域サロンカフェを実施する。				
実施内容	加木屋市民館、三ツ池市民館、船島市民館、大田市民館、加家公民館、高横須賀公民館、平島市民館、富田公民館、富木島公民館の合計9館で実施した。 地域住民の交流の場としてサークルの紹介、活動内容や作品等の展示を実施した。 延べ参加者数 2,245 人(前年度比較 282 人減) 延べ開催回数 78 回(前年度比較 6 回増)				
目標に対する 評価	緑陽市民館がコミュニティセンターへ移行したものの、各館にてサロンカフェを活発に実施することで、地域住民のふれあい交流の場を提供することができた。 地区公民館・市民館を利用したことのない人が来館するなど、新たな人との交流が生まれ、サークル紹介や作品を展示することでお互いの活動を知ることができた。				
課題・改善点	新規利用者の確保に向けて、魅力ある企画・展示を検討する。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	創造活動・歴史文化交流施設 ワークショップ開催事業	事業費	979 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	東海市創造の杜交流館（以下「新施設」という。）の開館に向けて、映像に親しんでもらう機会を提供することで、新施設への理解を深めるとともに、継続的に開館に向けた気運を高めることを目的として、ワークショップを開催する。				
実施内容	「創造の杜交流館開館プレ講座～スマホで作るショートムービー～」と題して、2日間の日程で開催した。 ワークショップでは、撮影のコツや映像の構成等、基礎的な知識を学ぶ座学のほか、講師指導のもと、スマートフォンを使用して、横須賀町周辺の風景等を撮影し、編集アプリで編集を行い、1分以内の映像を作成した。				
目標に対する 評価	ワークショップを通じて、動画制作に挑戦するきっかけをもつことができ、自分で映像を撮影することや、撮影した映像を編集することの楽しさを体感する機会を提供することができた。映像を身近に感じてもらい、新施設に関心をもっていただく機会とすることができた。				
課題・改善点	引き続き、新施設の開館に向けた気運を高めていく取組みを実施する。				

単位施策 14-2 読書に親しみ楽しむ機会を増やす

【中央図書館】

番号	1	事業名	子ども読書活動推進事業	事業費	7,426 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	子どもが自然に読書に親しみ、言葉を学び、感性を磨き、豊かな表現力と創造力を醸成するため、子どもが本に触れる機会の拡大と読書環境の充実を図る。				
実施内容	【子ども文庫(小学校)事業】 小学生に薦めたい本をセットした「わくわく文庫」を1～6年生は毎月1回、特別支援学級は学期ごとに学校・学級間で巡回させ、全学年で856冊の児童書を更新し、小学校間の移動時には、書籍消毒機を使用して本を除菌・消毒し、子どもの読書環境を整備した。また、小学校での読書支援では、児童向けのブックトークやおはなし会に加え本の修理などを実施した。 【子ども司書体験講座】 小学4～6年生を対象に、図書館を身近に感じ、本や読書に対する理解を深めてもらうために、窓口業務を含む図書館司書の仕事を体験する講座を実施した。 【小中学生読書状況アンケート】 「第二次東海市子ども読書活動推進計画」の進行管理の基礎資料とするため、市内小学4・6年生と中学2年生を対象に、読書意識や読書量の調査を実施した。				
目標に対する 評価	小学生に対する事業では、教室内という身近な場所に本を配置する巡回回数を増やし、子ども達が多くの本に触れたり、図書館の施設や仕事に興味を感じたりしてもらうことができた。				
課題・改善点	「わくわく文庫」は児童の生活に定着してきているが本の傷みが多く出ているため、今後も計画的に更新していく必要がある。				

【中央図書館】

番号	2	事業名	中央図書館運営事業	事業費	35,589 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	生涯学習の拠点として広く市民に親しまれる図書館を目指し、市民の多様な要望に応えられる図書館運営を行う。				
実施内容	幅広い年齢層の市民が本に親しみ、必要とする情報を得られる場を提供した。子ども達を物語の世界へ誘い込むきっかけづくりとして、読み聞かせボランティアの協力による「お話友の会」等の実施及び読み聞かせ活動の活性化を図るため、読み聞かせに関する初心者向け講座を開催した。 また、図書館をより身近に感じてもらうため、各種展示会や「本のリサイクル日」等を実施するとともに、小学生の施設見学の受入れ及				

番号	2	事業名	中央図書館運営事業	事業費	35,589 千円
	び読書感想文コンクールの実施など、学校との連携も図った。				
目標に対する 評価	市民の生涯学習機会を充実させるため様々な事業を実施できた。子ども向けの「お話友の会」は75回実施し、計1,089人が参加、「読み聞かせボランティア講座」は絵本の選び方から読み聞かせの全体の流れを学ぶ基本的な内容から、受講者が互いに読み聞かせを行う実践的な内容で、今後の読み聞かせ活動のスキルアップにつなげることができた。子どもの読書習慣を形成していくうえで、読書の幅を広げていける環境を整えられたこと、また保護者に対して読み聞かせの大切さを啓発することができた。 また、季節や時事に合わせた図書の展示を実施し、幅広い世代に図書館をアピールしたと評価できる。				
課題・改善点	中央図書館、横須賀図書館はともに建築から40年以上経過し、施設の老朽化、駐車場の不足等が課題で、計画的な施設修繕や市民の利便性の向上を検討する必要がある。市民にとって利用しやすく、興味や関心を引く本が紹介できる環境の整備と蔵書の充実を目指していく。				

【中央図書館】

番号	3	事業名	日本福祉大学図書館連携事業	事業費	381 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	市民の読書機会を増やし、生涯学習活動を充実させるため、日本福祉大学東海キャンパス図書館と連携する。				
実施内容	日本福祉大学東海キャンパス図書館に一般市民向けの本・雑誌を配本した。				
目標に対する 評価	小説や実用書等一般市民向け図書98冊と雑誌20誌を配本し、市民の生涯学習の場を増やすことができた。				
課題・改善点	一般市民が大学図書館を気軽に利用できるよう、「図書館だより」等で周知を図る必要がある。				

施策 15 だれもが気軽にスポーツライフを楽しむ元気なまちをつくる

単位施策 15-1 スポーツに親しむ機会を提供する

【スポーツ課】

番号	1	事業名	東海市ハーフマラソン開催補助事業	事業費	30,000 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	市民のスポーツに対する興味関心を高め、スポーツ振興及び心身両面にわたる健康の保持増進につなげていくとともに、全国からの交流人口を拡大し、にぎわいの創出と地域経済の活性化を図っていくため、ハーフマラソン大会の開催に向けて補助を行う。				
実施内容	開 催 日：令和 5 年（2023 年）12 月 10 日 場 所：名鉄太田川駅周辺一帯 種 目：【ハーフマラソンの部：定員 3,000 名】 2,638 名 参加 【10 km の部：1,000 名】 869 名 参加 【2 km の部：1,000 名】 911 名 参加				
目標に対する 評価	3 回目の開催で、初めて募集定員を満たし、当日は、県内外から 4,418 名が参加したことで、交流人口の拡大及び太田川駅前を中心としたにぎわいの創出と地域経済の活性化を図ることができた。				
課題・改善点	暑さの影響で、救急搬送事案が 2 件発生した。引き続き、緊急時に迅速な対応が行えるよう、連携の強化等図っていく必要がある。				

【スポーツ課】

番号	2	事業名	総合型地域スポーツクラブ補助事業	事業費	24,500 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	総合型地域スポーツクラブである一般社団法人スポーツクラブ東海の活動に対して補助を行い、市民のスポーツ振興並びに健康増進を図るため、各競技による市民大会等の実施や、幅広いニーズに応じたスポーツ教室等を開催する。				
実施内容	【競技スポーツ部門】 ・市民大会等の実施（26 競技種目で約 100 回 ※昨年度は 25 競技種目で約 80 回） ・小中学生を対象とした教室等の実施 ・指導者講習会、審判講習会等の実施 【スポーツ振興部門】 「春だ！わくわくキッズスポーツ体験会」や「レディースソフトエアロスクール」をはじめ子どもから大人まで気軽に参加できる 13 のスポーツ事業を開催した。 【一般会員数】 (R4) (R5) 競技部門：4,835 人 → 5,222 人				

番号	2	事業名	総合型地域スポーツクラブ補助事業	事業費	24,500 千円
		振興部門： 316 人 → 303 人 計 5,151 人 → 5,525 人			
目標に対する評価		一般会員数については、昨年度と比較して増加し、コロナ禍前の水準まで戻った。 競技スポーツ部門においては、中学生を対象としたスポーツ教室であるジュニアクラブにおいて、柔道とバレーボールを新設したことで、新たなニーズへの対応ができ、ジュニア世代のスポーツ振興及び競技力の向上を図ることができた。 スポーツ振興部門においては、引き続き多くの事業を実施し、スポーツを楽しむきっかけ作りの場を提供することができた。			
課題・改善点		会員数は増加したが、スポーツ振興事業において、参加者が規定の人数に届かず未実施となった事業もあるため、市民のニーズに対応した事業を実施するとともに効果的な PR に努める必要がある。			

【スポーツ課】

番号	3	事業名	スポーツ推進委員会設置事業
		事業費	7,524 千円（当初:9,044 千円）
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標		各種スポーツの市民大会運営や、各種団体との連携によるスポーツ教室・スポーツイベント等を開催し、市民のスポーツ振興及び健康増進を図る。	
実施内容		【会議関係】 スポーツ推進委員会全体委員会 年 12 回 【大会関係】 ・市民ペタンク大会 令和 5 年（2023 年）5 月 13 日 参加者 37 人 ・夕涼みモルック 令和 5 年（2023 年）8 月 19 日 参加者 56 人 ・太田川健康ウォーキング 令和 5 年（2023 年）10 月 22 日 参加者 100 人 ・市民モルック大会 令和 5 年（2023 年）10 月 29 日 参加者 109 人 ・体力テスト&ニュースポーツ体験会 令和 6 年（2024 年）3 月 18 日 参加者 123 人 以上の活動の他にも、市や地域のスポーツ活動に関わるとともに、知多北地区スポーツ連絡協議会の活動を通じて、近隣市町との交流及び情報交換を実施した。	

番号	3	事業名	スポーツ推進委員会設置事業
		事業費	7,524 千円（当初:9,044 千円）
目標に対する評価	東海市民体育館の改修工事により開催場所を変更したため、参加者人数が減少したイベントもあるが、その他のイベントやスポーツ推進委員の派遣により、ニュースポーツ（モルック）の認知を令和 5 年度でより一層広めることができた。		
課題・改善点	引き続き、ニュースポーツ（モルック）を幅広い世代に認知してもらうため、イベント等の内容の充実に必要なある。 また、ウォーキングに関しては、参加者数が年々減少傾向にあるため、増やせるよう、スポーツ推進委員と検討していく必要がある。		

単位施策 15-2 スポーツで活躍する人を支援する

【スポーツ課】

番号	1	事業名	愛知万博記念市町村対抗駅伝大会派遣事業	事業費	1,475 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	一般社団法人スポーツクラブ東海陸上競技部や愛知製鋼陸上競技部の協力のもと、練習会、合宿、記録会及び選手選考会を行い、新たな小中学生の選手の発掘、競技力の向上及び選手の育成を図る。また、本大会において、5 位入賞を目指す。				
実施内容	・長距離練習会 開催日：6 月～9 月の第 1・3 水曜日 延べ参加人数：157 人 ・東海市チャレンジ陸上記録会 開催日：令和 5 年（2023 年）6 月 24 日 参加人数：57 人 ・クロスカントリー記録会 開催日：令和 5 年（2023 年）7 月 15 日 参加人数：31 人 ・代表候補選手強化合宿 開催日：令和 5 年（2023 年）8 月 17 日～19 日 参加人数：22 人（選手 14 人 スタッフ 8 人） ・東海市代表選手選考会 開催日：令和 5 年（2023 年）9 月 17 日 参加者：31 人				
目標に対する評価	本大会では、市の部で 14 位という結果で目標の順位に届かなかったが、選手団の結成に向けた練習会や記録会に多くの参加者を募ることができ、新たな選手の発掘や育成、競技力の向上が図れた。				
課題・改善点	引き続き、本事業を通して新たな選手の発掘及び育成に努め、次回大会での 5 位以内入賞に向け、記録会等への参加者が増えるよう、記				

番号	1	事業名	愛知万博記念市町村対抗駅伝 大会派遣事業	事業費	1,475 千円
録会等の内容の充実に努める必要がある。					

【スポーツ課】

番号	2	事業名	ふるさと大使等スポーツ連携 交流事業	事業費	2,288 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	市民と東海市ふるさと大使が交流する事業を実施することで、東海市ふるさと大使である企業チームの認知度を高め、応援していく機運を醸成し、市民の一体感や活力を生み出すとともに子どもたちに夢やスポーツの楽しさを伝える。また、東海市ふるさと大使を中心に包括連携協定を締結している東レなどのトップアスリートチームや地域の優れた人材と協力し、技術指導や試合観戦をすることで、小中学校の競技力の向上や将来トップアスリートになることを目標とする意識の向上を図る。				
実施内容	【ふるさと大使等（企業チーム）によるスポーツ教室】 市内企業チーム等によるスポーツ教室を実施 ・日本製鉄東海 REX（2回、延べ参加人数 338人） ・愛知製鋼陸上競技部（1回、参加人数 25人） ・大同特殊鋼ハンドボール部フェニックス（1回、参加人数 70人） ・東レアローズ女子（1回、参加人数 158人） 【ふるさと大使（企業チーム）との交流】 日本製鉄東海 REX、愛知製鋼陸上競技部、大同特殊鋼ハンドボール部フェニックスが一同に介したスポーツ交流事業（Fan!Fun!Fan!）を実施（参加人数 91人） 【ふるさと大使等（企業チーム）の試合観戦】 Vリーグ（東レアローズ対NECレッドロケッツ）の試合観戦を実施（参加人数 59人） 【トップアスリート講習会】 2003年全日本剣道選手権優勝の近藤功氏による剣道講習会を実施（参加人数 110人） 【スポーツ指導者によるスポーツ教室及び指導者講習会】 スポーツクラブ東海の各競技部による小中学生を対象とした技術指導及び指導者に対する講習会を実施（8競技、延べ参加人数 492人）				
目標に対する 評価	市内企業チーム等によるスポーツ教室を各1回開催することができたほか、試合観戦やFan!Fun!Fan!の実施等により、多くの子供たちがトップアスリートと触れ合うことができ、子どもたちの体力や技術の向上を図ることができた。				
課題・改善点	引き続き、ジュニア世代にトップアスリートと触れ合う機会を多く				

番号	2	事業名	ふるさと大使等スポーツ連携 交流事業	事業費	2,288 千円
	与えられるよう、市内企業チーム等と連携し、子どもたちの体力や技術の向上を図る必要がある。				

施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる

単位施策 16-1 市民の文化芸術活動を支援する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	文化祭開催補助事業	事業費	5,600 千円
令和 5 年度 (2023 年度) の 計画・目標	市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助する。				
実施内容	開催日：令和 5 年(2023 年)11 月 4 日～5 日 場 所：東海市民体育館、東海市立勤労センター多目的ホール 内 容：日頃の成果発表の場、発表作品の鑑賞の場として、以下のとおり展示等を行った。 【文芸部門】詩作大会、短歌大会、俳句大会、川柳大会 【美術部門】絵画展、書道展、写真展、工芸展、切手・絵手紙展、市民茶会、華道展、草樹展、小中学校児童生徒造形・書写秀作展 その他、似顔絵コーナーや沖縄体験学習コーナーを設置した。				
目標に対する 評価	新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられてから初めての開催となり、コロナ禍で開催した令和 4 年度(2022 年度)に比べ、作品数、出品者数、来場者数のすべてが増加となり、幅広く市民に文化・芸術活動に触れる機会を提供することができた。まだまだコロナ禍前の水準には達していないため、街全体にコロナ禍前の賑ぎわいが溢れるよう、引き続き、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助していきたい。				
課題・改善点	令和 6 年度(2024 年度)は、東海市民体育館の工事が終了し、例年どおりの開催に戻るため、会場レイアウトを関係団体と調整する必要がある。また、展示を中心とした文化祭の形式から、来場者が文化的な体験ができるワークショップなどを継続して実施し、新しい文化祭のかたちづくり、次世代への継承などを行っていく必要がある。				

単位施策 16-2 感動が生まれる文化芸術を提供する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	芸術劇場自主文化(鑑賞・にぎわい)事業	事業費	70,054 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標		文化創造プランを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。			
実施内容		「東海市ひとづくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に鑑賞・にぎわい事業等を実施した。 【公演】 ・諏訪内晶子ヴァイオリン・リサイタル、カニサレス・フラメンコギター、キーウ・クラシック・バレエ、ポップス・コンサート、吉本新喜劇&バラエティ、0歳からのわくわくオーケストラ等、29公演を実施(実入場者数 11,767 人、入場率 68.5%) ・交流パフォーマンス 271 回(実出演者 592 人、入場者数 4,239 人) 【美術展】 ・東海市文化祭美術部門入賞作品展覧会(出品者数 33 人、入場者数 201 人) ・木之下晃メモリアル 公募写真展(出品者数 24 人) ・交流ギャラリー 16 展示			
目標に対する 評価		幅広いジャンルの事業を実施し、様々な年代層の方の参加があり、「にぎわいづくり」をはじめとした芸術劇場の理念に結びつけることができた。令和5年度(2023年度)は特に、ノトス・カルテットをはじめとした、世界の第一線で活躍する最高峰のアーティストの演奏を安価で提供することができ、幅広い市民が優れた音楽作品を身近に感じることができた。			
課題・改善点		「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念の実現に向け、中長期的な事業展開が必要であることから、継続して実施する必要がある。また、新たな分野も含めた公演等を実施することで、芸術劇場の認知度を向上させつつ「にぎわいづくり」を図っていく必要がある。			

【文化芸術課】

番号	2	事業名	芸術劇場自主文化(ひとづくり)事業	事業費	40,957 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	文化創造プランを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくづくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。				
実施内容	「東海市ひとづくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に、次代の文化芸術を担う人材育成を中心とするひとづくり事業を実施した。 【公演】 ・東海児童合唱団定期演奏会、東海市子どものオーケストラ定期演奏会、TOKAI DANCE PROJECT、東海市民合唱団定期公演、劇場招待コンサート（市内全小学5年生、中学2年生）の6公演（実入場者数4,793人、入場率62.4%） 【ワークショップ等】 ・芸術劇場を拠点とする4団体（東海市子どものオーケストラ、東海市民合唱団、東海児童合唱団、東海市ダンスチームMiakot）（延べ参加者数14,879人） 【アウトリーチ】 ・出会いの教室（市内全小学校4年生、適応指導教室「ほっと東海」を対象に全38回実施）（延べ参加者数1,047人） ・よしもと流楽しいコミュニケーション（三ツ池小学校、横須賀小学校、船島市民館、下名和公民館で全6回実施）（延べ参加者数657人） ・ふれあいコンサート（市内福祉施設等で全4回実施予定）（延べ参加者数213人） ・おんがくさんはじめてコンサート（市内保育園で全6回実施予定）（延べ参加者数504人）				
目標に対する 評価	ふれあいコンサートは、令和4年度（2022年度）は一部芸術劇場での開催となったが、令和5年度（2023年度）は、各施設で計4回実施することができ、日頃劇場へ足を運ぶことが困難な方に対しても文化芸術に触れる機会を提供することができた。				
課題・改善点	「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくづくり」の理念の実現には、中長期的な事業展開が必要であることから、引き続き芸術劇場を拠点として、長期にわたり質の高い文化芸術を提供していく。特に次世代の子どもたちが早期に文化芸術に親しむ環境をつくり、人材を育成し、市民主体の文化芸術の振興を図る必要がある。				

施策 17 郷土の歴史や文化を大切に継承する

単位施策 17-1 伝統文化を大切に守る

【文化芸術課】

番号	1	事業名	子ども芸能発表会開催事業	事業費	650 千円
令和 5 年度 (2023 年度) の 計画・目標	子どもたちが日ごろ取り組んでいる文化活動等の成果を発表することで、経験と自信につなげ、文化活動の普及や伝統芸能の継承を図るとともに、夢を持つ心を育むことを目的とし、子ども芸能発表会を開催する。				
実施内容	市内の小中学校、公民館・市民館、文化協会、各地域で活動している子どもたちが、日ごろ取り組んでいる伝統芸能や文化活動を芸術劇場大ホールで発表し、出演団体の展示コーナーをホールロビーに設置した。また、プロの公演として、「小林芙未香（東海市出身）」氏が歌唱を行った。 出演団体数 20 団体 出演者 454 人 来場者 1,513 人				
目標に対する 評価	子どもたちによる日頃の練習成果の発表を、普段あまり経験することができない大きな舞台で一堂に発表・鑑賞することができ、また、普段あまり接する機会の少ない団体（和の団体は洋の団体、洋の団体は和の団体）の演技を鑑賞することで子どもたちにとって良い刺激になり、達成感や自信に繋がり良い経験に繋がった。 さらに、大ホールホワイエに各団体の活動紹介展示コーナーを設けることにより、出演団体の活動が分かるだけでなく、各地域で継承されている舞や、学校で受け継がれている伝統芸能等の紹介を行うことができた。 また、プロの公演では、「小林芙未香（東海市出身）」氏の歌唱を聴くことで、心に響く貴重な体験となった。また、地元出身の出演者が夢を叶えて、活躍している姿を観てもらうことで、努力し続けることの大切さや、夢を叶えることの素晴らしさを伝えることができた。				
課題・改善点	演目によっては、場面転換、来場者の入場に時間がかかることがあり、公演時間が長くなってしまうことがあったため、来年度以降は、場面転換時間等のバランスを考え、出演順を設定する必要がある。また、例年より出演団体数が増加した場合に、公演時間が延長しないよう、円滑に進行させるための工夫や、長時間の観覧が観客の負担にならないような方法を検討する必要がある。				

単位施策 17-2 郷土の歴史と文化に親しむ

【社会教育課】

番号	1	事業名	文化財保存・普及事業	事業費	11,473 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	東海市の貴重な文化財を後世に引き継ぎ、文化財への関心を高めてもらうため、保存事業への補助及び普及事業を実施する。				
実施内容	文化財・埋蔵文化財(遺跡)の維持管理及び所有・管理者への補助事業を実施した。 市道建設予定地内に所在する高ノ御前遺跡(大田町)の発掘調査を実施した(令和4年度繰越明許費)。 老朽化した文化財表示看板(大門組山車、常蓮寺、普済寺)の板面を更新した。 文化財防火デーに合わせて、東海市立平洲記念館・郷土資料館で文化財防火訓練を実施した。				
目標に対する 評価	文化財等の維持管理及び所有・管理者への補助事業により適正な保存を図ることができた。 高ノ御前遺跡の発掘調査を実施し、貴重な埋蔵文化財の情報を記録保存することができた。 老朽化した文化財表示看板の板面を更新することで文化財の普及活用に資することができた。 また、文化財防火訓練を東海市立平洲記念館・郷土資料館で実施し、貴重な文化財に対する防火意識の高揚に寄与した。				
課題・改善点	今後も文化財等の適正な保存を図るとともに、継続的に普及啓発を実施し、普及啓発事業の内容の検討をする。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	細井平洲顕彰事業	事業費	2,734 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	細井平洲先生の嚶鳴の教えを生かした交流を進め、全国への情報発信、ふるさと東海市への愛着を深めるため実施する。				
実施内容	作家の童門冬二氏に平洲記念館名誉館長を委嘱し、ホームページに「童門冬二の平洲塾」を月1回紹介したり、全国誌「歴史街道」に記事掲載をしたりするなど細井平洲先生の遺徳を顕彰する事業を実施した。令和5年度(2023年度)については童門冬二氏の年齢を考慮し、講演会やビデオ講演の代替として、平洲記念館来館者等への配布を目的としたリーフレットを作成した。				
目標に対する 評価	著名な作家童門冬二氏が平洲記念館名誉館長として、執筆活動等を通じて広報していただくことにより、細井平洲先生の遺徳を市内外に広く顕彰することができた。				

番号	2	事業名	細井平洲顕彰事業	事業費	2,734 千円
課題・改善点	今後も、童門冬二氏の指導及び助言により、細井平洲先生の遺徳を顕彰する事業を展開するとともに、平洲関係の講座等を引き続き実施する。また、嚶鳴広場(東海市芸術劇場内)で実施する事業と連携することで事業効果の拡大を検討する。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	嚶鳴広場各種講座等開催事業	事業費	3,119 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	嚶鳴広場において、童門冬二氏を顧問とし、細井平洲先生を始め全国各地の先人の教えや歴史をわかり易く発信するために、各種展示事業等を行うもの。 常設展示だけではなく、特別展示を行うことにより広く情報発信すると共に、来場者に飽きのこない施設運営を図る。				
実施内容	嚶鳴広場における童門冬二氏の図書及び資料の展示や各種講演会、特別展示等を実施した。 ・「童門冬二の嚶鳴講座」 3回 ・特別展示 2回 (山本蘇門と細井平洲 等) ・企画展示 2回 (登録有形文化財 等)				
目標に対する 評価	講師都合により、10月開催予定であった第1回の講座は中止となったが、講義予定であった内容の資料を郵送し、文書開催という形で代替の方法にて、細井平洲先生をはじめ全国各地の先人の教えや歴史に触れていただける機会を提供できた。				
課題・改善点	先人の教えや歴史を市民及び全国へ広く発信・顕彰するために、市民等のニーズに即した様々な展示、講演会、講座等を開催していく。				